

小4国語④

氏名

月 日

/5問

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

おばあちゃんが英会話の教室から帰ってくると、男の子が一人家のうら庭をのぞきこむようにして立っていました。
①「どうしたの、ぼうや。」

おばあちゃんが後ろから声をかけると、男の子はちょっとびっくりして、とび上がったように見えました。でも、にげたりはせずに、おばあちゃんの方をふり向きました。見ると、男の子は、胸に一びきの子ネコをだいていました。

②「あら、そのネコちゃん、ぼうやのネコちゃん？」

何かわけがありそうなので、おばあちゃんはいいました。「ここじゃなんだから、うちへ入らない？ うちにもネコちゃんがいるのよ。おばあちゃんネコだけ。」

男の子は、孝夫君といました。今度、お父さんの転勤でこの町にきて、四月からこの小学校の三年生になるそうです。家は、おばあちゃんの家から三百メートルほどの所にある五階だてのマンションだということでした。

そして、おばあちゃんに聞かれるままに、孝夫君が話してくれたのはこんなことでした。

まだ友だちもなく、一人で近所を
あ
しているうちに、孝夫君はいつのまにかおばあちゃんの家ハナコと友

だちになっていたのです。そして今日、マンションの近くで、すてられていた子ネコを見つけたのです。

「大きなネコならただめだけど、こんな小っちゃいんなら飼ってもいいかもしれないって思ってさ、ぼく、うちへつれてったんだ。」

「でも、やっぱりだめだったのね。」

「うん。お母さんが、どうしてもだめだって。それで……。」

それで、孝夫君は、なかよしになったハナコがいるおばあちゃんの家なら飼ってもらえるかもしれないとつれてきたのです。

「それでさ、このネコ、飼ってくれるかな。」

孝夫君は素晴らしいながら、ちょっと心配そうな顔をしました。もちろん、おばあちゃんには反対するわけなどありません。この子ネコのおかげで、ハナコが元のように元気になってくれたら、いうことはありません。

「ええ、いいわよ。」

おばあちゃんにいわれて、孝夫君は、ほんとうにほっとしたように、にっこりしました。

(安藤美紀夫「おばあちゃんボーイフレンド」より)

一部表現の変更がある。

一 線部①「どうしたの、ぼうや。」をろう読するとき、
どのように読むのがよいですか。最もふさわしいものを、
次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きま
しょう。

- 1 悲しい様子で静かに読む。
- 2 わくわくした様子で元気に読む。
- 3 安心させるようにやさしくゆっくり読む。
- 4 不安な様子で自信なさそうに読む。

3

二 線部②「何かわけがありそう」とありますが、孝夫
君がおばあちゃんのところに来た理由は何ですか。説明し
ましょう。

例
おばあちゃんに子ネコを飼っても
らいたかったから。

三
あ に入る言葉として最もふさわしいものを、次の
1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きま
しょう。

- 1 のろのろ
- 2 ぶらぶら

- 3 はきはき
- 4 しくしく

2

四 この文章を読んだ山本さんと前田さんは、次のように話
しています。

【山本さんの話】

孝夫君は、
を思っても悲しんだと思います。
とき、子ネコのこと

【前田さんの話】

最後の孝夫君の様子からは、孝夫君がおばあちゃん
の言葉を聞いて
ことがわかります。

それぞれの
に入る内容を、考えて書きましよう。

山本さん

例
お母さんから家で子ネコを飼っては

だめだと言われた

前田さん

例
安心して

いる